

事務事業名		菅谷たたら山内活用補助事業		所属部	教育委員会	所属課	文化財課
総合計画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち《教育・文化》		所属G	文化財・文化振興G	課長名	板垣 旭
	施策名	(32)地域文化の振興		担当者名	志賀 崇	電話番号	0854-40-1104
	目的:対象	市民	意図	統文化・歴史遺産)を次世代に伝える。			
	基本事業名	(097)地域文化の活用		予算科目	会計 款 大事業 大事業名	文化財保護事業	
目的:対象	市民	意図	地域文化を学び、体感する。		項 目 中事業 中事業名	菅谷たたら山内活用事業補助金	

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (23 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
菅谷たたら山内の活用を図ることを目的に、たたら製鉄の研究、公開、交流人口の拡大などの事業に対し補助金を交付する。
事業主体:公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動)		30年度計画(30年度に計画する主な活動)			
		①補助金交付業務 ②事業内容の精査		①補助金交付業務 ②事業内容の精査			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
	ア 補助金交付事業	件	1	1	1	1	
	イ						
	ウ						
	エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	① 市民 ② 市外の人	ア 雲南市人口	人	39,032	38,506	37,794	37,987
		イ 市外人口	千人	127,056	126,895	126,669	126,500
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	「菅谷たたら山内」への見学者の増大により、交流人口の拡大、地域の活性化が図られる。	ア イベントの実施件数	件	2	1	1	1
イ イベント来場者数		人	200	200	29	100	
ウ 菅谷たたら山内見学者数		人	8,369	9,254	11,513	12,000	

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
補助金 6,000千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
	事業費	地方債	千円	6,400	6,400	
		その他	千円			
		一般財源	千円	0	0	6,000
		事業費計(A)	千円	6,400	6,400	6,000
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	1
		延べ業務時間	時間	40	40	60
		人件費計(B)	千円	157	159	245
		トータルコスト(A)+(B)	千円	6,557	6,559	6,245

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
菅谷たたら山内保存修理事業や「出雲國たたら風土記」の日本遺産認定、映画「たたら」侍、豪華寝台列車「瑞風」の菅谷たたら山内立ち寄りなどを機に、たたら製鉄に対する注目度が増している。	事業内容の有効性の精査	たたら製鉄に対する“追い風”を活かした事業展開が求められる。旧態依然の事業内容の改善。

事務事業名	菅谷たたら山内活用補助事業	所属部	教育委員会	所属課	文化財課
-------	---------------	-----	-------	-----	------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	菅谷たたら山内、たたら製鉄の歴史に関する情報発信の充実を図るためには、製鉄技術、鉄山、鉄穴流しから人々の生活・文化に至るまで調査研究を進め、内容の充実を図る必要がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	充分な活用が図れなくなる。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	鉄の道文化圏推進協議会が実施している日本遺産事業との、より一層の連携が必要。		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	補助金交付事務のみである。		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
	⑩ 1次評価者としての評価結果			⑪ 1次評価結果の総括(根拠と理由)
評価 の 総 括	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	実施された事業内容の有効性について、検証が必要であると思われる。事業内容の一層の充実、かつ本事業ならではの特色を出す必要がある。
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																						
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																						
調査、研究、公開、交流人口の拡大などの補助事業が更に成果をあげるよう精査を行い、補助事業者に対して、随時、指導・監督を行う。																									
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト				削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		●																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																									